

代表質問通告書

令和5年 北秋田市議会 3月定例会

順位	1	質問者	日本共産党 議員団	久留嶋 範子	出席を要求する理事者	市長
質問事項及び要旨					理事者の答弁	
<p>1. 物価高騰による市民生活の支援策について 施政方針では「物価高騰は、今後も市民生活に影響を及ぼすものと想定されることから、状況を見極め躊躇なく対応してまいります」とあるが、具体的な支援策はどのように考えているか。</p> <p>2. 新型コロナの5類移行に伴う今後の対応について 政府は新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けを今春に季節性インフルエンザと同じ5類に移行すると決めました。 県医師会からも、コロナ感染症が完全に収束した訳ではなく、県民が不安を感じることなく移行できるようにしなければならないと対応の必要性を強調しています。市としての考えは。</p> <p>3. 「こども課」の創設について 子育て施策を更に充実させるため「こども課」を創設し、幼児期から切れ目のない支援体制により、子どもと保護者の安心・安全と子育て家庭の経済支援に取り組んでまいりますとあるが、これまでも子育て支援をやってきたが「こども課」の設置で従前と何が違うのか、単に「係」を「課」にただけではないのか。また、教育分野は「こども課」に入っていないのはなぜか。</p> <p>4. 内陸線支援について 経常損失2億円以内とする目標に向け、秋田県、仙北市、秋田内陸縦貫鉄道株式会社と連携するとともに関係団体の協力を得ながら利用促進に向けた活動を継続するとあるが、仙北市は内陸線支援の在り方について協議を進める方針を示しました。 存続について、仙北市とは温度差があるのではないか。 市長の見解を求めます。</p> <p>5. 公共下水道事業について 使用料改定に向けた取り組みを進めるとあるが、具体的にはいつの値上げを考えているのか。 物価高騰の中で、市民生活がますます大変になるのではないか。</p>						

6. 消防防災体制について

2022年度は火災件数の増、救急出場件数は過去最多となっている。

初の女性消防吏員の誕生や、森吉・合川分署の統合などにより市民の安心・安全をどのように構築していくのか。